

西洋建築史第1回

序 - 「建築」の歴史

中島 智章

序.歴史の三分法と四分法

Ancient: 古代の=西ローマ帝国滅亡まで、Medieval: 中世の=東ローマ帝国滅亡まで、Modern: 近代の=それ以降
Antiquité: 古代、Moyen-Âge: 中世、Époque moderne=フランス革命まで、Époque contemporaine=それ以降

1.「建築」の語源

建築(当初は「造家」も) architecture, architect(英) Baukunst, Baukünstler, Architektur, Architekt(独)
architecture, architecte(仏)、architettura, architetto(伊)、arquitectura, arquitecto(西)・・・
architectura, architectus(羅) architectonice techne, architecton(希) arche(原理、頭)+tecton(工匠、職人)
DE ARCHITECTVRA, LIBRI DECEM 第1書 [fabrica(opus), ratiocinatio] [quod significatur, quod significat]
[ordinatio(taxis), dispositio(diathesis), eurhythmia, symmetria, decor, distributio(oikonomia)]
[aedificatio, gnomonice, machinatio] [ratio × 3=firmitas, utilitas, venustas]
『建築十書』邦訳 ウィトルウィウス:『ウィトルウィウス建築書』、森田慶一訳、東海大学出版会、東京、1979年。

2.西洋建築史の領域

古代ギリシア・ローマ文明(「建築」の故郷)とその理想化された姿「古典古代」を奉じた時代・地域の建築を取扱う
欧州の中でもローマ帝国の版図が及んだことのある地域(ラテン世界+独英など)の古代、中世、近世の建築
+メソポタミア・エジプト・エーゲ海建築(古代ギリシア・ローマ人にとっての「古代」の建築)

3.講義計画

- | | |
|------------------------------------------------|-----------------------------------------------|
| 1. 序 - 「建築」の歴史(本日の講義) | イタリアの巨匠たち、『建築術論』、理想都市 |
| 2. 古代1 - オリエン特世界の建築
メソポタミア・エジプト・エーゲ海・ギリシア建築 | 8. ルネサンス2 - 古典主義の系譜
各国への伝播、ゴシック建築の伝統との関係 |
| 3. 古代2 - ローマの建築と都市
オーダー、『建築十書』、フォルム、植民都市 | 9. バロック1 - 反宗教改革の建築
デザイン論、ドームの美学、各国への伝播 |
| 4. 中世1 - 古代の継承と消失
初期キリスト教・ビザンチン建築、古代建築の転用 | 10. バロック2 - 絶対王政の建築
イコノグラフィ、庭園、祝典と劇場、パトロン論 |
| 5. 中世2 - カテドラルの時代
ロマネスク・ゴシック建築、城館、中世都市 | 11. バロック3 - 都市の破壊と再生
ローマとパリ、都市防御システム、国王広場 |
| 6. 欧州史の表舞台 - 戦争の建築
城壁と都市、垂直防御と「見えない」要塞建築 | 12. 啓蒙時代 - 古典古代との決別
室内装飾諸様式、風景式庭園、新古典主義 |
| 7. ルネサンス1 - 建築家の誕生 | 13. 結 - 「建築の歴史」の歴史 |

4.参考文献

日本建築学会編:『三訂版 西洋建築史図集』、彰国社、東京、第2版、1983年。
鈴木博之編:『図説年表 西洋建築の様式』、彰国社、東京、1998年。
中島智章他7名:『図説テキスト 西洋建築史』、彰国社、東京、2003年出版予定。